

## イランの新年の四大大行事と日本文化との類似性

### ジャムシディ ジャムシッド

初めに：日本と同じくイラン人も祭りの好きな国民である。古代から年中イランでは祭りが行われていた。宗教的な背景を持った祭りや一般国民共通な祭り、二種類の祭りが盛大に決まった時期に行われていた。NowRuz の祝祭は国民共通かつ象徴的な人気の高いお祭りと考えられる。

古代からイランの暦は春の初日から新年が始まるとなっている。寒い冬季が終を告げ、春は気温が暖かくなり、昼と夜の長さが等しくなり自然が蘇る季節と考えられる。自然から暗示を受け生命・生活・人生が蘇なければならいと先人が考えた。代々伝わったこの概念を元に人々が自然と一体化する一環として心身を入れ替えなければならないと思い、日常生活の刷新に取り組む。元日を NowRuz と言い、新しい日または新年が始まる一月一日との意味である。NowRuz の種々の行事が13日間も続く。以下、主な行事4つについて紹介する。

**1. 蘇ると掃除** 新年になるとイラン国中の各家庭は整理整頓と掃除に大忙しくなる。家中を徹底的に掃除でピカピカにする。掃除だけではなく必要な場合に家のリフォームをしたり新住宅を購入したりする。子供達に新しい服を捨てる。子供も一年中この日の到来を非常に楽しみにしている。掃除を始め表面を新しく綺麗にすることは大変意味深い行事である。古代からイラン人は年が新しくなるとこの世を去った身内の人の魂（精霊）が帰宅すると考えた。魂を喜ばすため盛大な歓迎を込めた掃除の行事がある。魂を迎える行事は日本のお盆（盂蘭盆会）の風習によく似ている。

ちなみに日本にお盆が始めて行われたのは飛鳥時代における女帝、西明天皇の時代であった。飛鳥を訪れた西域の人たちつまりペルシアからの来客が飛鳥寺でお盆の行事を行ったとされている。

**2. 新年挨拶、NowRuz** と続けて13日まで新年のご挨拶の期間である。親族や友達や知り合いなど互の自宅を訪れご挨拶を行い、一年の友好と親善な関係を確認する。ジュニャーがシニャーに、部下が上司に、後輩が先輩に、学生が教師に挨拶を申す。

子供達にお年玉をあげる習慣も盛んに行われる。子供たちがお客さんからのお年玉を楽しみにお客さんの前にあぐらを組んでお年玉の瞬間を待つ。お年玉をもらったら去っていく。日本と比較するとイランでは年賀状の交換が少ない。ただし、遠く離れた友人と年賀状の交換が行われる。

日本でも以前年賀状の交換の習慣はなくやはりお互いの自宅を訪ねて直接挨拶を交わしていたらしい（年賀）。特に目上と上司の自宅を訪ねて挨拶をし、一年の協力を確認すると同時に土産をあげたりしていた。江戸時代に、特に明治時代を中心に年賀状の交換の習慣が一般化する。子供達にもお年玉をやる習慣は日本とイランは類似した風習です。



化や現実生活に密着な関連性を持つものばかりである。

鏡は神聖なもので至高な神の存在を常時意識するよう思い起こす効果を有するものと解釈される。

鏡は日本の三神器のうちの重要な一象徴であり、その点でイランとの共通な文化思想背景を印象付ける。

金魚も HaftSin の敷衣に大切な役を演じる。イラン暦では12月は魚座で新年1月はラム座と考えている。旧年と別れを告げ新しい年に期待を込めて金魚を供える。魚の赤色は新鮮さと健闘と繁栄の意味を含んでいる。

卵は誕生と創造の意味を付与されている。

#### **4. Sizdeh Bedar**(新年13日目)

新年1月13日で NowRuz のすべての行事は終了する。Sizdeh(13日に)Bedar(家出)

する習慣のことである。この日は家の中で待機したらいけないことになっている。家族全員ほとんどは食材や調理道具や遊び道具などを持って近くの公園や野原で一日を過ごす。雑談したりゲームをしたりすることで友好と絆を確認し強化すると同時に自然と一体化する意味も伴う。この日に元日から供えた芝を川に流す。女神アナヒタの象徴である川や水に芝を捧げる。または芝を結んだりすることでお願いが叶うのを期待する。

女神アナヒタは水や川や音楽の象徴の神様とされている。イランのアナヒタは音楽の象徴で知られている日本の七福神の弁財天に相当する。